

Today's Mission

隴西の李徴は博学才穎、天宝の末年、若くして名を虎榜に連ね、ついで江南尉に補せられたが、性、狷介、自ら恃むところ頗る厚く、賤吏に甘んずるを潔しとしなかった。(中略)。一方、これは、己の詩業に半ば絶望したためでもある。曾ての同輩は既に遥か高位に進み、彼が昔、鈍物として齒牙にもかけなかったその連中の下命を拝さねばならぬことが、往年の儁才李徴の自尊心を如何に傷けたかは、想像に難くない。彼は快々として楽しまず、狂悖の性は愈々抑え難くなった。一年の後、公用で旅に出、汝水のほとりに宿った時、遂に発狂した。或夜半、急に顔色を変えて寢床から起上ると、何か訳の分らぬことを叫びつつそのまま下にとび下りて、闇の中へ駆出した。①彼は二度と戻って来なかった。附近の山野を搜索しても、何の手掛りもない。②その後李徴がどうなったかを知る者は、誰もなかった。(中島敦『山月記』より)

私が学生るとき、授業で扱われた作品からの出題です。内容は今でも覚えています。人間の心情を踏まえて読んでみると、より味わい深く読むことができるかもしれませんよ。

自分が作った英語を投稿したい人は、下記のアドレスまで！
休校中課題や+αに取り組んでいる学習の質問でもOKです。



徒然なるままに...

皆さんは本屋によく立ち寄りますか？私は本屋が好きです。現在は以前のように通うのは難しいですが、現状が落ち着いたら再び通いたいと考えています。本屋というのは不思議な空間なものです。興味があるなしに関わらず、ふと手に取って読んでしまう自分がいます。タイトルに心惹かれたのだろうか。これはどんな内容なのだろうか、と気になってしまったのだろうか。まるで本が自分に“読んでみてよ”と語りかけている様です。そして読んでみると、いつの間にやらその世界に入り浸ってしまうことが多いのです。小説、エッセイ、自己啓発、料理本、旅行雑誌、資格試験、大学の専門書（文学史、歴史、心理学、経済学、物理、数学、…）、サブカルチャー等。その場で読めないものは購入してじっくりと読みます。

ジャンルは様々ですが、こういう本との出会いは貴重なものだと思います。“こういう考え方（表現の仕方）があるのか”“見やすいレイアウトだなあ。どうやって編集するのだろうか”“学問の世界はこんなに広く、奥深いんだなあ”… たくさんの気付きが得られます。大学の専門書に至っては、専門外の学問の内容の理解は到底及びません。でも“こんな分野があること、初めて知った！”“いろいろな学問の発達があるからこそ、今があるんだろうなあ”など、改めて感じるができます。(直近では、水道工学という分野を知りました。)

とりとめのない文章になってしまいましたが、本は人生を豊かにしてくれる存在である、ということはおそらく間違いないのではないかな、と思う次第です。次は、どんな本との出会いがあるのでしょうか。

[35 回生投稿窓口・35 回生質問受付窓口 takatsuka2019@gmail.com](mailto:takatsuka2019@gmail.com)

(件名に、学年、組、番号、名前、用件を必ず書いて送信。：気の向くままに vol.0 参照)

(投稿・質問以外のメールは固くお断りします)

(休校期間が終了次第、本メールは閉鎖します)

気の向くままに… ～英語で表現コーナー～ vol.6 へ続く

編集 35 回生学年団 3-1 K.M